京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一圓金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久神一郎
發行所 京城新報社 京城西署西小門通(電話六六三)

雜報

麻産地の調査(二)

朝鮮製麻會社技師

麻蒐集に就ては從來不正仲買人入り込み相場にもなき僅少の錢を付押け品物を持ち去る如き壓制に懲り自家用の外可成栽培せざる樣手控へ居りたる由なれとも自家用の殘りとして少きは二三貫目多きは五六貫目も各自之を保存せる模樣を見受けたり故に之を蒐集せんには左のみ困難の事たらず値段は本國何れの地方より引くも京城着十貫目にて二十圓位より以下五圓迄の間にて得らるゝ見込なり又年々の收穫をも取調べしに彼等は從來秩序的耕作をなさず爲めに確實なる事を知るを得ざるも一反歩に付き製精苧凡そ二十貫を得ると話せり植付より製絲迄の人工費用は不確實にて此度は之を記載するを得ず肥料は從來無論施したる事なき樣子なれども其れにしては割合に良質と云はざるを得ず今後肥料を施し耕作及び製線に注意せば、層見上げたる良苧を得んこと更に疑ひ容れざるべし更に角苧其物にて盛に取引せば彼等は自然秩序的耕作又は製線を加へ競つて市場に擔ぎ出すに至るべきは以て本品蒐集の前途を樂觀するに餘りあらん苧麻は山野自然生の多年草纖料植物にして莖稍木質を帶び三四尺に達し柔毛にて被はるゝ葉は卵形にして尖り邊緣鋸齒あり葉柄長く互生す表面深綠にして裏面白色軟毛密生す雌雄同株にして無花冠、花被四片四雄蕊なり之れが皮部を剝ぎ織物の原料とす纖維の細良なると漂白にして絹糸の如き光澤あるとを特異とす東印度及南清地方の原產にして歐洲に多く栽培せられ彼の地にては之を「ラミー」と唱へ服地テーブル掛、ナフキン、窓掛敷布又は細織物に混織して亞麻織物以上に賞美されつゝあり我邦にては越後上布、薩摩上布等是なり近年麻紡織會社及製綱會社の原料に支那より盛に輸入して麻紡績にては漂白せず蚊帳ヅック等の原料となしつゝあり柳行李を作る綱をも此の支那麻より製出せられ中々要需の廣大なるものなり朝鮮にては南部地方苧麻ノ原產地にして初春より晩秋に至る迄被着する白色の周衣は此の苧麻皮にて製したるものなり

京城郵便局の事業統計(四)

郵便貯金

預入

年度別	口數	金額(圓)
二十五年度	六六	七三、七四五
二十六年度	五三	三三五、一四八
二十七年度	四五六	八、七一四、二四五
二十八年度	六四九	七、七六二、七三〇
二十九年度	四一八	四、八二八、九二四
三十年度	五六六	五、八九九、三六〇
三十一年度	六一四	六、二二八、五五七
三十二年度	七〇五	八、六〇五、四三三
三十三年度	一、七八六	二三、〇一七、二四四
三十四年度	一、二六四	一〇、三六四、七五〇
三十五年度	二、〇二四	一一、五二五、五六四
三十六年度	五、八四七	五〇、七九九、八七八
三十七年度	八、九二三	四二、〇〇六、七二一
三十八年度	七、〇〇一	五一、九八五、八六五
三十九年度	三、〇七〇	八三、七一七、九二二
四十年度	四、一三九	一二五、三四二、九三〇
四十一年度	四、八四五	一三七、〇三三、七八三
四十二年度	一九、三三一	一一九、四一七、一五五

拂渡

年度別	口數	金額(圓)
二十五年度	二一	三〇、五七五
二十六年度	三二	一三三、五四九
二十七年度	四九	一、三八七、六四三
二十八年度	一四〇	二、一六七、四四四
二十九年度	一一九	二、九一四、四八五
三十年度	一三五	二、六三六、九六八
三十一年度	一八二	二、九三〇、四〇一
三十二年度	三一六	三、一一一、一六八
三十三年度	五八一	五、五九八、一六〇
三十四年度	五二四	三、八七六、二五九
三十五年度	四八〇	五、〇四〇、四五一
三十六年度	六八三	三、三三七、二〇五
三十七年度	二、五〇三	二四、三一八、八五〇
三十八年度	二、九二二	四八、二八七、三七〇
三十九年度	五、四九二	七五、四四一、三九二
四十年度	七、五八九	一四一、九九〇、七五三
四十一年度	八、四六一	一三三、四九七、〇一〇
四十二年度	六、七二一	一〇六、九九三、七三一

備考

一、他に貯蓄機關の設置あるを以て其增減は一定の論據を有せざるも年々累加せり

一、四十二年度の計數を三十二年度に對比するに預入口數二十七倍二割六分強金額十三倍八割八分弱拂渡口數廿一倍二割四分弱金額三十四倍二割八分強の增加割合となる

朝鮮山野の荒廢(三)

(齋藤山林課長の談)

次に第三の未墾地の稚樹生長量を概算せんに元來朝鮮の未墾地には稚樹の發生して居る部分甚だ少なきも多く見て全面積百二十萬町歩の二割即ち二十四萬町歩とし又毎町平均の生長量は山野同樣二尺締として算出すれば多く見たる稚樹每年の生長量四十八萬町歩次に第四の林野以外地即ち耕地、宅地、路傍等に點散する林木の生長量を概算せんに此分は統計の徵すべきものなきを以て假に田畑百八十万町歩の一割に立木あるものとし(多く見て)每年平均の生長量を森林同樣五尺締として算出すれば多く見たる林野以外の生長量九十万締即ち朝鮮に於ける樹木每年の生長量たる以上の四つを合計し見るに多く見たる森林の木材增加量千三百萬尺締多く見たる山野の稚樹生長量千六百万尺締多く見たる未墾地の稚樹生長量四十八萬尺締多く見たる林野以外地の稚樹生長量九十万尺締計三千三十八萬尺締此三千三十八萬尺締は每年朝鮮に於ける正當なる木材の生產量即ち利子を多く見て概算したるものなるが之を最初の消費總量たる四千八百萬尺締より差引し見るに千七百十二萬尺締の不足となる朝鮮森林の貧乏なる所以は之れで知り得るであらう

▲然るに朝鮮には內地其他よりの輸入材がある稅關の調べによれば之れが多く見て每年平均約二百萬圓であつて其平均單價は約十圓である故に輸入材は約二十万尺締であつて其原木材積即ち立木の時の材積は多く見て五十萬尺締である故に前の不足額千七百六十二萬尺締から之れを減じたる千七百十二萬尺締が眞の木材不足額になるのである

▲即ち朝鮮に於ける每年木材の不足額は之れを控目に見るも千七百餘萬尺締で之れを貫目に概算すれば無慮一億二千餘萬貫目となり之れだけ樹木が每年朝鮮から減じて行くのである然るに朝鮮の森林は平均した處で一町歩の材積が約百尺締に過ぎないから謂はゞ一町歩に付百尺締の材木を有する森林を每年十七萬餘町歩宛皆伐し裸にする譯

▲朝鮮目下の有樣でも此通りである況んや前途を思はゞ人口の增殖、生活標準の高上から鐵道電線の延長、架橋の增加等一として木材の消費を增加する原因ならざるは無い一方木材供給の資源たる森林の蓄積は每年急速に減少し行くこと前陳の通りであるから今何とか救濟の策を講ずることは最も必要と信ずる(完)

文苑

小冊子

一美生

噫々ホントに宇宙は茫々で人生の行路は難し曾て我儘氣儘により溫い親の膝下に廿餘年無邊昨日と過ぎ今日と暮して居た自由者が偶々渡韓の成功てふ小冊子を物好きに買ひ求めたのが動機となつてから空想頻々として我が胸を躍し濡手に粟と夢見つゝ若草燃ゆる春三月飄然親愛せる故山をも辭し男子志しを立てゝ郷關を出づなどゝ口には出さねど心の裡其當時の決意と云ふものは動かす可からざるものあり鳥も通はぬ玄海まで渡りて此處かと胸撫で下したは此の京城、艶を競ひし花も褪せ散りて綠陰に涼を追りしも早過去今では秋風身に染む秋となつたが濡手に粟の訴へ地に哭す殘忍なり酷薄なり京城の空想も初めて醒めては逆境の此身天に地因果とや云はむ隱報とや云はん寄食の可憐兒秋虫の聲も日毎に悲しく冬枯に日を追ふ今日此頃四顧の眺め見る度に只恨らむ彼の小冊子は亦我が爲めに成功の…………

◎新刊紹介

▲豐太閤號 雜誌成功の秋季臨時增刊なるが卷頭の口繪及異筆に先ず其人を偲ばしめ松村介石氏の豐太閤の豪傑的性格外三十三名士の豐公觀は表より裏より前より後より公生涯より私生涯より殆んど說き悉されたり尚之れでも悉されざれば豐公は眞に不可解の人物なるべし豐太閤本傳は長田偶得氏の筆に成る附錄に『現代名士の西鄕南洲觀』あり中々に面白し(東京本鄕弓町一丁目十一番地成功雜誌社郵稅共五十四錢)

▲實業之世界 七卷二十號十月十五日發行(東京芝區三島町二同社十二錢)

▲力行 一號十月二十日發行(京城南大門外御成町東洋青年力行團非賣品)

▲繪葉書世界 四號十月十日發行(東京神田柳原川岸一一永井三星堂五錢)

講談

大岡政談 越後傳吉 第百七回

旭堂南陵講

正面に宗十郎さんが控へになり、庄兵衞は其所に繩付になつて控へて居る、馬子目宗十郎席を進めて庄兵衞の面を見ると豫て仰出しになつてゐる人相に寸毫も相違ない 宗「面を上げい」庄「ハイ 宗「生國は何所だ 庄「ハイ…… 宗「生國は何所だッ 庄「生國は越後國でございます 宗「越後、……フーム、越後は何所だ 庄「頸城郡 宗「頸城郡は何所だ 庄「夕、高田の在でございます 宗「高田の在だ……何といふ所だ 庄「其所に居りましたんですが、七八年前から越後のニ、ニ、新潟の方へ…… 宗「オイ〳〵明瞭といへ、越後國高田の在といふが何といふ所だと申すのぢや、明瞭にいへ、僞言は上において取上げにならぬぞ、明瞭申立てい 庄「ハイ 宗「高田の在は寶田村ぢやらう、何うぢやッ 庄「エイ、メ滅相な…… 宗「到底免れぬ所だぞ、其方は前名主庄左衞門の悴庄藏といふぢやらう、何うぢやッ」馬子目宗十郎に云れたときに蒼白になつた庄藏はアッと驚いてたゞ 庄「ハ、ハイ決してさういふ者ではございません、庄、庄、庄兵衞でございます、決して庄藏ではございません」言つてる處へバラ〳〵〳〵ッさ、姙娠して居りまするうめをも早や召捕て引て參りました、蒲團の間に入れてあつた金子も引揚げて來た、姙娠のところへ不意に吃驚したものですからポーッと逆上たと見ねてたうめの兩眼は血走つてゐる 宗「控へ居れい 梅「ハイ」偶爾たうめが見ると側に良人が引張られてゐるから 梅「ア、庄藏さんぢやアないか」吃驚した庄藏、庄藏といつちやアならねと思ふから 庄「コレ〳〵……」眼色で知らすんだが、もういけない、當人は逆上せてしまつてゐる 梅「庄藏さん、何だつて妾「こんな處へ縛られて來たんだね、もう庄藏さん仕方がない縛られたら傳馬町



どやらいふ御牢屋敷へ行きやアた父さんやれ母に會へるだらうね、庄藏さん傳吉のことは何うなつたんだらう……」庄藏はたゞもう驚いた、これをいはせちやアならぬと思ふんだがもう役人の前だ 宗「ハ、、、、已れの口から饒舌るやうになるのは天命だ、何うだ庄藏正直に申立てろ 庄「ハイ 宗「その方の女房がべら〳〵と何も彼も饒舌つてるぢやアないか、尋ねないこともまでいつてある、サア汝の兩親に牢內で會へるだらう、兩親にも早く面會が出來る、庄藏ッ、傳吉を無實の罪に陷いれやうとしたのは何うぢやッ 庄「ハイ……」流石の庄藏もモウいたし方がございません何しろ女房が狂人のやうになつて尋ねられないこととまでもベラ〳〵饒舌つてしまつたのですから、今は據ろなく庄左衞門の悴庄藏なることを白狀をいたしました、續いて源六の金子を盜んだことまでも申立てましたから、側に聞いてゐた源六は驚いた 源「成程彼旦那のいふ通り、鋭い奴だと思つたら銀だわい イヤ大變な奴だナ此奴ア」十六兩三分の金子は源六の方に下ることになりました、兩名の者は直に馬子目の旦那から言渡しになつて越前守樣にこのことを申上げた、越前守殿莞爾とれ笑ひになつて、然もあらんと、更めて關係人殘らず呼出しに相なり、最早やこれが最後のお調べだから正面には名奉行大岡越前守殿、郡奉行黒崎伴右衞門は傍らに色蒼白めて控へてゐる、庄左衞門はやの兩名、傳吉、その傍らに與兵衞、せん、甚右衞門、三右衞門、三浦屋の番頭藤助、金之助など殘らず揃うて居ります、蒼白になつて控へてゐるのは庄藏うめの兩人、越前守殿は越「庄左衞門面を上げい、はや面を上げい 兩「ハイ」越「其所に控へて居る兩名の者を見よ 兩「ハイ」偶爾見ると殺された〳〵といつて居る庄藏、うめの二人だアッと驚いた二人が顏の色蒼青になつてガタ〳〵と身を顫はす、甚右衞門、三右衞門の二人はこれを見て、甚右衞門思はず大きな聲を張揚げ 甚「斯うなんなきアなんねだよ、オッ死んだ奴が二人活きて來やアがつた」背後から役人が 役「控へッ、何ぢや大きな聲出して……」甚「何うも有難ていこんだ、これで小旦那は助かりました」甚右衞門、三右衞門我を忘れて呼はる

東京電報

▲載洵殿下の巡視
同殿下一行は今二十六日午前九時芝離宮御出門海軍大學校同經理學校軍醫學校等順次巡覽せられたり(廿六日)

▲清公使の晩餐會
駐日清國公使王大燮氏は昨二十五日午後六時より永田町の同公使館に於て載洵貝勒殿下一行を招待し盛大なる晩餐會を開催し伏見宮貞愛親王東伏見宮依仁親王伏見若宮博恭王の三殿下桂首相以下各大臣各國大公使渡邊宮相以下各宮內省高等官石井外務次官長崎、藤井、青木以下各接伴員等其他百餘名列席したり(同上)

▲載洵殿下の發期
目下滯京中の載洵殿下は出迎の爲清國より一艦船を派遣し佐世保に入港を許可されたるにより殿下は來る二十八日午後四時新橋發列車にて御退京十一月一日佐世保より同汽船にて歸國のことに決定せり(同上)

▲軍艦生駒の通過
英國派遣の軍艦生駒は目下歸航中なるが本日臺灣沖を通過中なり(同上)

▲伊藤公の一週忌
今二十六日は故伊藤公爵の一週忌に相當するより兩陛下を始め奉り皇太子殿下各皇族李世子殿下より御名代並に御使を同家に差遣せられ又朝野の名士谷垂の墓前に參拜する者引きも絕らず同家に於ては正午大森恩賜館に於て墓參者に午餐を供されたり(同上)

▲工場法と衛生會
工場法案に關し中央衛生會は十二名の委員を設けて目下調査中なるが幼年者就業制限及び夜業取締に付ては尙ほ意見多き模樣なれば多少の修正は免れざるべしと(同上)

▲治水會の發會式
治水會發會式は昨日開催されたるが平田內相の治水演說ありたり(同上)

▲世界一週出帆
高等商船學校練習船「大成丸」は豫定の如く本月生徒九十四名乘組の上橫濱出帆世界一週の途に上りたるが關係市民の觀送盛なり(同上)

▲貴族觀光の一行
朝鮮貴族觀光團一行は昨午後宮島着本日宮島遊覽午後三時の列車にて東上の豫定一行の元氣旺盛也(同上)

▲貴族觀光團入京期
朝鮮貴族觀光團三十一名は來る二十八日午後五時入京の筈なり(同上)

▲電報料値下の議
滿韓內地間の電報料不廉なるにぞ此程在留邦人より其筋に陳情する所ありたるが海底電信の我が政府の手に移りたる上は從來の七字一音信を十五字一音信に改め內地臺灣間同樣一音信四十錢に低減し來年より實行せらるべしと(同上)

▲醫藥と賣藥區別
內務省中央衛生會に諮問中なる製劑取締案中醫藥と賣藥との區別標準に關し委員間に議論沸騰し何等纏らざるより特別委員を設けて折衷案を作りたるが同案は用量、用法、效能を包紙に記入するを賣藥とし醫藥は新聞廣告を禁止し只學術的廣告のみに渡るを醫藥となすにあり政府は同案に同意の傾向あるも委員側には尙反對論少からず(同上)

▲革命黨員の警戒
清國革命黨員中危險人物として其筋より嚴重なる注意を惹ける梁啓超は同志一名と共に二十一日午後六時半神戶より汽車にて東上したる形跡あり目下載洵殿下御滯在の折柄とて嚴重に警戒し居れり(同上)

▲載洵殿下の獻品
載洵殿下には昨二十五日參內の際兩陛下に種々の獻上品ありたり(同上)

▲載洵殿下御旅程
載洵殿下來二十八日新橋發退京大阪へは立寄らず宮島へ向け直行の筈となれるも右は同地に惡疫發生の爲め聖慮に依り御變更となれりと(同上)

▲大阪停車場擴張
鐵道院に於ては大坂驛を擴張すべく調査中なるが未だ確定に至らざるも多分旅客、荷物の停車場を別々に設置せらるべく改築工事の完成迄は同驛北側空地に貨物專用線を布設すべし(同上)

雜報

天長節と各學校
(內務部長官の訓達)

來る十一月三日は併合後第一回の天長節に當れるを以て特に留意して愼重に奉祝の誠意を表する爲め宇佐美內務部長官は各道長官に宛て各管下公立學校長に當日相當の擧式を行ふ可きは勿論學校長或は學監教監は學員學徒に對し陛下の聖德を頌し且つ此の佳節を祝すべき所以を訓話し新附の民をして衷心聖壽の萬歲を祈らしむべき旨訓達あり一方官立學校に對しては直接同樣の訓達を爲したるが長官より發したる各學校の學徒學員に訓話さすべき要領如左

一、曩に 天皇陛下は前韓國皇帝陛下の誠實なる希望を納れさせられ東洋の平和を確保し生民の福利を增進せんが爲め韓國を併合して永久に統治せらるゝに至れり且つ前韓國皇室との寵遇を重んぜられ皇族の禮遇を賜はり門地又は功勞者に榮爵と金劵を賜はり忠順にして相當の資格あるものを官吏に登用し且民の師表たるべき耆老に對しては恩賜の恩遇あり孝子節婦の旌表、鋏逋の免除、罪囚の大赦、地租の減免を行はせられ又各府郡に於ける授產教育備荒の資を給せらるゝなど全土の民衆惠澤に浴せざるは無し學徒たるもの宜しく聖恩の鴻大なるを辨知し須臾も忘るゝことある可からず

二、此の如く仁慈の德に富ませ給ふ陛下は允文允武の英主に在はし御齡十六にして踐祚し給ひ父皇の遺業を承けて維新の大業を成就し給ひしより今日に至るまで宵衣旰食殖產に教育に其他總て國力の充實と發展とに大御心を用ゐられ給ふ其盛德大業は言辭の及ぶ限りに非ず

三、本月本日は 天皇陛下が御降誕あらせられたる天長の佳節にして帝國臣民の最も慶賀すべき祝祭日なり陛下寶算方に五十九玉體特に御健全にして英邁の資を備へられ仁德海の如く常に民人の疾苦を軫念し給ふ學員生徒たるもの克く此聖恩に感激し安んじて學を修め業を勵み他日勤勉忠良の臣民として世に處せんことを期し誠心誠意 陛下の御健康と聖壽の萬歲とを祈るべきなり

昌德宮殿下の露島行
既報の如く昌德宮同妃殿下は廿六日午前十一時敦化門出門露島の園藝模範場に成らせられたるが李完用伯、閔丙奭子、石井少將、小宮前宮內次官、菊池殖產局長及女官三名隨行し警衛には池田警部騎馬巡査八名を指揮して前驅し大橋憲兵大尉は下士以下二十六名の憲兵を指揮して御馬車の前後を警戒したり而して沿道の人民は道路を淸め日章旗を掲揚して靜肅に迎送したり

模範的監獄備設
各地監獄の狀態別項の如く不備不完全極るより當局者に於ては獄制改善の第一着手として既に模範的監獄を建設せんものと京城青坡に於て先頃來敷地の地均に着手し來年十月頃迄には獄舍建築の竣成を見るに至るべきが右は數十万圓の建築工費を投じての設備なれば諸事遺憾なく完備し殆んど理想的なるべしと尙同監獄には優に二千人を收容し得べしとの事なり

監獄事務の狀況
京城、平壤、大邱其他朝鮮各地の監獄は先頃來着々改良せられつゝある事は屢々報道したる所なるが經費豫算の都合上未だ目新らしく改善せられたるものとてはなく現在に於ける各監獄の狀態を見るに先頃の大赦令に依り約一千七百餘人の釋放出獄せるあるにも關らず今尙は監獄に繫留せらるゝ者各獄舍を通じて建坪十一人位の囚徒を收監する割合にて是れを內地の二人强を收監するに比せば實に約五倍に相當し斯くては衛生狀態の改善、懲戒の目的等を遂して囚徒を改悛せしむる事など決して見るべきなく現在に於ては工作に從事する者僅かに十分の一二に過ぎずして其他は徒食し居る次第にして教誨師の講話等も殆んど有名無實に等しきより小人閑居して不善を考ふる次第なれば入獄中に手工の巧妙を失するのみか怠慢の性情を養はれて出獄後の處世に苦しみ再犯三犯比々皆な然りと云ふ然れば此際に於て經費の能ふ限り工場の設備をなし無藝者に迄も手工の一二を練習せしむる事急務中の急務なりと

●監獄囚徒の工造物 監獄の設備不完全に且つ狹隘を告ぐるの有樣なるより囚徒の工作等は殆んど望むべくもあらず強壯者病弱者重輕犯人雜然群居し却て初犯の者をして犯罪の方法等を練習するの場所たらしむるの觀あるより當局者に於ても頗る苦心と注意とを拂つて已に一部の監獄の如きは獄舍外に鐵條網等を張り繞らし其の內に於て工作等を課したるに彼等囚徒は却て是れを歡迎するの風ありと云ふ

●總監部の豫算會議 警務總監部來年度豫算は概略前年度豫算の範圍に於て調製せられ其所要金額は二百二十餘萬圓なるが之が實地使用に就ては現在の狀勢と將來の希望に參酌し尙ほ大に考究を要すべきものあるに由り廿六日山縣政務總監官邸に於て明石總長中野警務官永谷庶務課長等參集審議を重ねたりと

●教育勅語二十週年 來三十日は教育勅語下賜第二十年の紀念日なれば內地に於ては學校を始め教育家側にてそれぞれ捧讀會、紀念會の催しあるべき事なるが朝鮮の各學校には未だ勅語謄本の下賜され居らざるより學校は勿論教育家側に於ても何等催すところなきよし

●大西軍醫部長昇進 軍司令部大西軍醫部長は二十五日附けを以て軍醫監に昇進せられたり

●大西軍醫監の披露 大西軍醫監は新任披露の爲廿八日午後六時半より京城ホテルに於て軍司令官を師團長藤田軍醫監明石總長榊原參謀長其他の將校を招待し小宴を催さるゝ由

本社主催日鮮人合同

奉祝天長節大提灯行列

日人側總指揮官 古城民團長
鮮人側總指揮官 俞府民會長

一、參加人員豫定 一萬人
各商工團體、各銀行、會社、病院、諸學校生徒、鐵道局其他一般官民但し十二歲以下の少年者を入れず

▲行列順序

一、集合出發場所 景福宮光化門前の廣場
一、出發時間 午後六時
軍樂隊を先登に立て順路光化門前より長谷川町(出て府廳前)本町一丁目を左に折れ本町通りを通過し新町に出で新町より大和町に出て直行日の出町を通過し日の出町小學校角より左に折れ總督邸に達し玆にて天皇陛下の萬歲を三唱し右倭城臺に登り大神宮前に於て万歲を唱へて解散す
一、參加者心得
參加者は何等費用を要せず但し各自の提灯と蠟燭とを用意せらるべし

本年の天長節は併合後第一の佳節なり此際に於て日鮮兩臣民合同して帝聖文武なる陛下の御誕辰日を祝するは快亦た快の事なり因つて本社は其筋の認可を經て奉祝の計畫を爲す、有志日鮮人諸君奮つて御參加あらんことを

京城新報社

速達郵便の開始
京城に於ける郵便物速達の利便を圖る爲め主として自轉車配達に依る郵便物速達規則發布せられたるが其要領如左

一、速達郵便は京城、光化門、南大門、西大門及龍山の各局普通配達區內に宛てたるものに限り發信人に於て其の郵便物の表面に速達便と朱記し前記五局の窓口に差出すこと

二、前項の各局に於ては毎日午前七時より午後八時半乃至九時迄之か引受を爲す

三、速達郵便は引受後直に若は遲くも凡三十分以內に自局區內宛のものは配達人を出し又他局區內宛のものは其の配達受持局に發送す其の送付を受けたる局の配達時間亦右に同し

四、前項の配達便及傳送便は午前七時過ぎより凡三十分毎に之を連發するものにして各局とも毎日二十八回乃至三十回の配達便を出し尙他の配達受持局との聯絡便亦配達便と同一回數を各局相互間往復せしむる者とす

五、配達及傳送とも雨雪其の他止むを得さる場合の外自轉車に依り一分間凡三丁の割合にて送達するものにして其の發便間際に差出したるものゝ如きは電報よりも尙速達する場合あるべし

六、速達郵便には一般の郵便料の外に速達料として左の料金を要す
京城及龍山に在ては七錢
京城と龍山間に在ては十二錢

七、速達便に依るときは配達受持局より假りに二十町の地に配達を要するものとする時發信人差出後七分間乃至如何に遲くも凡三十七分間內に又他の配達受持區內に宛てたるものは更に之に凡十分乃至三十分を加へたる時間內に名宛人に到達し得べし

八、右は十一月一日より施行する者也

高架電鐵を造れ
(某銀行家談)

日韓瓦斯電氣會社は其開業の劈から君のところの新聞には大分ヤラレた樣だ、併し其ヤラレたのが藥になつたとも見られて此頃では新龍山線の增設發電所の增置電鐵の區域變更、電燈料の値下、瓦斯引込料の否徵收、電車車輛の新造等中々勉强するようになつた、トコロが何の動機からか知らぬが曾ては同會社の提灯持をした京城日報が此頃になつて足元から鳥が飛立つた樣に同會社の攻擊を始めた、何れ之には何か仔細があろう、ソレはソレとして自分は日韓電車に希望をして貰いたい事がある、夫れは外ではないが京城の內地人居住區域に電車の便を延長して貰いたいのである、尤も今の本町通りへ電鐵線を引けと云ふても夫れは無理だ、トコロで自分の考へでは大和町邊から倭城臺の下を通り本町の裏通りへ掛けて高架電鐵線をカケル事だ、ナニ夫れには多分の工費が入らうと、ソレは勿論の事だが併し自分の見込では工費の多い割合に收入が增すから會社は決して損はすまい、ソレから此高架電鐵が出來たら一般の便利が良くなることは疑なく東部だの西部だのと地主さん達が心配して騷ぐ理由も必ず消滅する、京城に電車がある、而かも今日の處電車の便を受けるものは重もに朝鮮人で內地人は與らずとは可笑事だ、府の當局者や會社の當局者は自分の提案を納れて眞劍に研究されてはドウか。

滿州大豆の初輸送
長春にては今日猶は大口の大豆取引なきも去る二十三日漸く淸商成合棧より新大豆高粱取合せ約一千石を大連に輸送せり之れ同地本年の初輸送なり相場は一時三十八吊まで下落したるも目下は四十一吊を唱へり

●九月中の貿易比較
關稅局調査に據る九月中貿易は昨年の同期に比し一段の好況を呈せり則ち其主たる品類左の如し

	昨年九月	今年九月
小麥	一萬八千七百圓	三万餘圓
淸酒	五万五千圓	六萬圓
綿糸	二十萬一千圓	廿二萬六千圓
紙類	四萬二千圓	六萬千五百圓
熟鐵	五万一千圓	六萬五千圓
マッチ	二万六千六百圓	三萬五千八百圓

其他生金巾シーチングの如き九月中に於ては格段の差違なかりしも本年に入りて頓に盛況に向へり尙ほ一月より九月末迄の累計は貿易額は昨年の同期間に比し二百十四萬三千圓の增加なり內輸入三萬五千圓輸出二百十萬圓なり而して輸出の增加は一に米、大豆、牛皮の盛況によりしものなりと

●田所文部省參事官 歐洲よりの歸途二十三日安東縣に着したる田所文部省勅任參事官は朝鮮各地の學事を視察の爲め目下平壤、鎭南浦に於て教育狀況視察中なるが來る三十日頃開城を經て入京當地滯在各學校を視察する由

●視察團一行の出發 二十五日午後十一時平壤より入京せる篤農家朝鮮視察團の一行は二十六日午前九時南大門發列車にて歸途に就けるが一行は既報の如く大邱にて東拓出張所其他を視察し同地にて解散の筈

●大久保司令官歸着 軍司令官は幹部演習實視を終り二十六日午前八時十分平壤發列車にて同日午後六時五十二分南大門着歸任されたり

●三浦元理事官消息 目下馬山歸省中の三浦彌五郎氏は來る十四五日頃當地へ來り三四日間滯在の後任地瑞典へ赴かるゝ由なり

●江木拓殖局部長 江木拓殖局部長は二十六日午前八時五分新義州發の列車にて平壤に向つて出發したり

●城控訴院長出發 城控訴院長

夫妻及世古檢事長遺族は廿六日午前九時南大門發列車にて新橋へ向け出發す

●竹內副官の視察 軍司令部竹內副官は地理實査の爲め二十七日龍山出發平壤に向け出發せられ大同江を溯りて實査する由なるが日程十日の豫定なり

●楢谷通譯官死去 總督府通譯官楢谷…は去る二十五日三日月旅館投宿中死亡す

公人私人
▲土屋兵馬(陸軍中尉)廿五日旭旅館投宿
▲下田文吾(鐵道院技師)二十五日平壤より入京し京城ホテルに投宿す
▲矢野菊橋(鐵道院參事補)同上
▲齋田耕陽(福岡日々記者)原金投宿
▲牧田元太郎(橫濱每朝社長)山本投宿

▲京城手形交換高▼

十月	金高	枚數
廿六日	一一四、二七五、八三	二九二

▲仁川港の出入船舶▼
▲高朝丸 廿七日大坂より入港
▲木浦丸 同 同 入港
▲山東丸 同 牛莊より入港
▲山東丸 同午前四時大坂へ向出港

▲治外法權▼
併合後第一の天長節が目睫に迫つて來た、我社は別項社告の如く國民的奉祝の意を表する爲め、三日の夜日鮮人合同の大提灯行列を擧行し、万歲の聲を千代田城に達せしめんとするのだ▲トコロで當日種々の催しがあろうが、取分け同業京日社の旗行列は良い思付きだ、晝は旗、夜は提灯ドッチも賑はふダロウ▲米國聯合通信のケチデーに會つた、彼れ開口一番曰く葡國はトウトウ共和國になつた、余は共和黨の成效を祝すと▲記者ケチデーに答て曰く予はラテン民族の共和主義に少しも信用を置かぬ、彼等は徒らに政變を好むものだ、知らずや前例直ぐ傍のスペインにあるをと▲するとケチデー先生は大分眞赤になつた、ソウして記者に鋭くマクシかけた、併し記者は先生の說に服しなかつた、で、仕舞はトウトウ水掛論に了つた▲开は兎に角として近來歐洲の政局は大分變つて來た、國力均衡はドーヤラ破れかかつた、一朝ドーンとなつたら夫れで往時の戰國に返へる、ソウなつた曉には平和と膨脹とはコッチの物だ▲朝鮮人の功勞者に叙爵と恩賜金があつた、一般人民へも恩賜金があつた、其上高齡者や孝子節婦が表旌されるソウだ、アー今年や朝鮮人の當り年だ▲サテ翻つて移住內地人を見ると、彼等の中にも功勞者が幾らもある、併し今日迄に授賞又は表旌されたものが一人もない、アー彼等は到底椽の下の力持に了るか▲藍綬、綠綬、總督府が何とか計らつたら良かろう、授賞は朝鮮人に限つた譯ではない▲地方輕便鐵道の計畫が諸所にあるようだ、其筋では無論許可するダロウ。

▲仁川米豆取引所▼
▲前場(廿六日)十二月一節八圓八十錢七十八錢九錢八十錢▲二節八十二錢三錢五錢四錢▲三節八十錢七十九錢八錢八十錢七十九錢八錢▲出來高二千三百五十石
▲後場(同上)十二月一節八圓七十錢一錢二錢一錢二錢三錢▲二節七十四錢三錢四錢三錢二錢▲三節七十四錢…錢七十錢六十九錢七十錢▲出來高三千八百五十石

▲大阪期米電報▼
▲前場(廿六日)十月寄十四圓五十一錢止三十九錢▲十一月寄七十七錢止六十錢▲十二月寄九十二錢止七十九錢
▲後場(同上)十月限寄十四圓三十九錢止同上▲十一月寄六十九錢止六十一錢▲十二月寄七十八錢止七十七錢

●出獄者の保護設備 內地に於ては出獄者の保護設備等は遺憾なく在監囚徒よりは却て出獄後に意を用ひて監督改善せしむるに力を用ゆるも朝鮮に於ては出獄者に對しては何等の保護注意も與へざるより怠慢の性質を馴致せられたる彼等は一般社會よりは擯斥せられて前日の知己朋友等迄疎んじ正業を得るに困難なるより重ねて惡事を爲すに至れる仕儀なるより近く本願寺に於ては當局者と共に出獄者保護の方法に就て苦心し奔走中なるが經費の點よりして未だ其運に至らざるが明年秋頃迄には何等かの方法を設けらるべしと云ふ

▲京龍兩驛の貨客▼
▲南大門驛乘降客 廿五日の分如左
乘車客 七八三 下車客 七九〇
乘車賃金 一七六〇、一五
▲南大門荷物扱高 廿五日の分左の如
發送 四八噸 到着 二〇二噸
發送賃金 七〇二、一〇
▲龍山驛の乘車客 廿五日の分如左
乘車客 二三八 下車客 一九九
乘車賃金 三〇九、六九
▲龍山驛荷物扱高 廿五日の分如左
發送 二九噸 到着 三九九噸
發送賃金 一〇三、四八

米の三鞭酒（某洋造家談）

此の程南洋諸島を視察して歸來せし某酒造家の談左の如し

近時東西の交通頻繁となり、趣味嗜好も漸次交換せられつゝあるの今日、獨り日本酒のみは殆んど日本人の嗜好以外外人間の愛用とならざるは遺憾なり、左れど時代は到底斯かる狀態を以て甘んずる能はず、是非共世界共通の飲料たらしめざることを促進し來りたり由來日本酒は甘味芳醇にして濃厚殊に特有の香味を有す、而かも外人の口には濃厚にして酒精分の強きを以て嗜好に適せざる者とせり、是れ因襲の久しき慣習と食料及其他の關係において全く絶望なることを避せられたり、無論外人なればとて決して濃厚なる酒精含有を嫌ふに非ず、寧ろより以上強烈の者を嗜好せり只是等の多くが醸造酒に非ずして蒸溜酒なるの相違あるのみ、左れば日本酒を以て絶對的に望なしと速斷するは早計ならん目下一般に愛用せらるゝ麥酒の如きも輸入の初期に當りては一部西洋心醉者の外は苦味なり日本食膳の調和に反する者なりとて口にする者尠なく到底今日の隆昌を期待せざりしも漸次其の趣味を解すると共に却つて今日にては夏季は麥酒に限る可しと歡迎を受くるに到れり、余は今回南清方面及び南洋諸島に於ける嗜好を視察したる結果は益々其の絶望す可からざるを確認せり云ふ迄もなく現在の酒味を其儘に需用せしむるは不可能ならん、多少の枸櫞酸、酒石酸若くば甘味を混入し之に炭酸瓦斯を竄入せしめ醱酵せしむ可く人工加味をなし所謂米を原料とせる三鞭酒を造りなば南清南洋は勿論歐米人の理想的嗜好に投せんこと敢て難しとせざるのみならず、現今の輸入三鞭酒の代用品たること疑ひなかる可し、只困難なるは税金の過重にして日本酒として多額の税金を徴せられたる上更に亦混成酒として税金を加課せられざる可からず、而かも尚之れを輸入三鞭酒に比すれば遙かに廉價にして品質又優良ならん酒造家たる者從來の島國根性に滿足せず奮闘一番宜しく外人嗜好の研究をなし世界的共通の飲料を醸出する事を講せざる可からずと云ふ

●京城日報子の誤報（忠北土地相場に付き）

清州城内 老 養 生

京城日報紙上に誤報の多き事は今に始めぬ事に候が去る二十三日の附錄記事中吾々忠北住民に取つて容易ならざる記事有之候間貴紙の餘白を借り茲に其蒙を啓き申候、即ち同紙末段にある「各地の田畑推定價格」なる題目の記事中他の各道は上田一反歩何れも三十圓以上なるに獨り忠北のみは十九圓とあり尤も該記事は其筋の調査とあれば京日記者の責任とのみは申さねど、さりとて餘りに事情に疎き議に有らずや、依つて該誤報の内容を察するに他の各道は正に一反歩の相場なるも忠北のみは一斗落の相場を標準と爲したるものと存候一斗落十九圓の三倍即はち一反歩五十七圓なれば相當の相場に有之又畑の部に於ても上畑七圓とは之又一斗落の相場にて先年同觀察道が模範場を設置する際の如き郡守其他に命じ官憲の威力を以て買上げたる極最下等の畑ですら尚は一斗落五圓なりし位ひにて目下の相場は少なく共一反十五圓以上に候、尤も該記事には一反とも一斗落とも明記無かりしも他の各道との懸隔餘りに甚だしく斯くては吾々同地方に土地を所有するものゝ信用にも拘はり申すべく、間違でも事に依るべしで同社記者諸君も多年内地の事情を御調査の上如斯不埒なる誤報なき樣希望致候

廣 告

▲仁川米豆取引所▼
▲後場（同上）十二月一節八圓七十錢一錢（一錢一錢二錢三錢▲二節七十四錢五錢▲三節七十四錢三錢四錢三錢
▲前場（廿六日）十月寄十四圓五十一錢止三十九錢▲十一月寄七十七錢止六十錢▲十二月寄九十二錢止七十九錢

●出獄者の保護設備
内地に於ては出獄者の保護設備等は略備はれるも當地に於ては何等の保護注意も與へざるより窓慢の性質を馴致せられたる彼等は一般社會より近く本願寺に於ては當局者と共に出獄者保護の方法に就て苦心し奔走中

▲京龍兩驛乘降客▼
▲南大門驛乘降客 廿五日の分如左 乘車客 七八三 下車客 七九〇
▲龍山驛乘降客 乘車客 [illegible]

▲仁川米豆取引所▼

▲前場（廿六日） 十二月一節八圓八十錢七十八錢九錢八十錢▲二節八十二錢三錢九錢四錢▲三節八十錢七十九錢八錢八十錢七十九錢八錢▲[illegible]二千[illegible]五十石

▲後場（同上） 十二月一節八圓七十錢一錢二錢一錢二錢三錢▲二節七十四錢五錢▲三節七十四錢三錢四錢三錢二錢一錢七十錢六十九錢七十錢▲出來高三千八百五十石

▲大阪期米電報▼

▲前場（廿六日） 十月寄十四圓五十一錢止三十九錢▲十一月寄七十七錢止六十錢▲十二月寄九十三錢止七十九錢

▲後場（同上） 十月限寄十四圓三十九錢止同上▲十一月寄六十九錢止六十一錢▲十二月寄七十八錢止七十七錢

大提灯行列彙報（昨日正午迄の申込）

▲救護隊の決定 本社主催提灯大行列は別項社告の通りなるが同夜日鮮人の來會者は約一萬人の豫定にて空前の盛況を呈するならん右に就き本社は萬一に備ふる爲め漢城病院に向かつて救護班の派遣を請求せしに同院は言下に之を快諾し同院の外科部長小林醫學士指揮の下に醫員看護婦十數名を以て救護班を組織し之れに參加する筈なり

▲音樂隊の申込 旭町歌舞伎座附音樂隊主任青山氏は自己の養成せる少年音樂隊を率ひて參加する旨申込みありたり

▲日韓瓦斯總出 日韓瓦斯電氣會社にては來る十一月廿日は恰も同社が瓦斯事業經營に着手せし一週年に相當するを以て社員約八百名大々的準備を整へて參加する事となり既に之が準備を凝しつゝあり

▲東亞煙草會社 にても同夜約一千の社員手に手に紅提灯を押し立て出場する筈なる同社は各團体中最も多人數を有するを以て一大異彩を放つべし

▲青木堂の申込 本町一丁目の青木堂主人は斯かる催しに此何時も率先して參加し常に光彩を放ちつゝあるが今回も本社の社告を見て大に賛成し多額の費用を投じて大々的設備を爲し參列すべく目下準備中なり

▲辻屋と龜屋 とは共に本町通りの大商店にして隨つて店員も多數なるが同夜は各店思ひ〳〵に意匠を凝らして參加する筈なるが日頃店頭の陳列に苦心經驗を重ねたる兩店員が如何に奇抜なる考案を廻らして此大行列に參加するかを見よ

▲日韓書房 本町二丁目の大書林日韓書房にても參加するに決定し主人森山氏は當夜店員全部を率ひて來會する旨申込みありたり

▲森安商店 本町三丁目森安商店にも店員總出にて此の佳節を祝する大行列に參加せんと申込みあり店員等は既に準備に着手し居れり

▲山邑と三巴 山邑は明治町三巴は本町一丁目にある共に京城屈指の大酒店にして店員の數も極めて多しされば兩店共本社の大行列には大々的勢を揃へ參加すると云へば是又一異彩を放つべし

▲呉服商組合 京城呉服商組合よりも申込ありたり同組合の店員諸氏は多く京坂地方の人々にして祇園祭禮や天神祭りに馴れたることゝて何れも思ひ〳〵に意匠を凝らして火の山を築くならんと云へば蓋し當夜中の着物なるべし

▲時計商組合 は二十六日委員會を開きたる結果參加する事に決定し河島時計店主人の如きは既に組合内を奔走して大に準備中なりと云へば是又大々的仕掛を見ならん

▲本町一丁目 此外本町一丁目にては殆んど總出にて之れに參加せんと目下準備に忙しと云ふ

▲各銀行會社 韓國、十八、百三十第一、天一、漢湖農工、漢城、韓一の各銀行及び三井物産會社等各信用ある銀行會社は何れも大賛成を爲し夫れ〳〵參加すべく決定せり

▲鐵道局の參加 南大門驛、西大門驛並に鐵道局各課の諸氏は逸早く賛成し目下參加人員其他取調中

▲東洋協會學校 も職員生徒總出にて此の大盛典を祝せんとて賛成し來れり

▲鮮人側學校 工業傳習所、外國語學校、師範學校、織湖學校等何れも協賛成し尚は官立高等學校も是又多分賛成するならん

▲基督教青年會 旭町四丁目基督教青年會は渡邊高等法院長の主宰するものにして京城教會中の牛耳を執れるものなるが今回本社主催の大行列に大に賛意を表し共に此盛典を祝するに決定せり同教會の如き宗教團体の來會を見るは本行列が如何に眞面目なるかを表するに足る可し

▲兩商業會議所 併合後第一回の佳節を奉祝し日鮮人の誠意を表する爲め本社の主催せる提灯行列は別記の如き府民の大に歡迎する處となりたるが當地日鮮人兩商業會議所も[illegible]參加する旨申込みありたり

李王世子の暗涙

▽一周忌の藤公を追憶して

故伊藤博文公の一周年祭は廿六日大井村谷垂の墓前に於て執行さるゝ事は既報の如くなるが李王世子殿下には公の生前父の如くに慕はれし程とて一層公を偲ばるゝ事深くツイ此頃も趙金等の御用掛に對し「最早一年になるが其腕に抱かれた當時が懷かしい、自分は如何なる親近よりも慕しい」と仰せられ、うぞろ當時を追懷あり暗涙これを久しうして今昔の感に打たれ給ひけるとぞ、猶ほ同殿下には一年祭當日親しく谷垂に御成りの上御參詣ある御思召なりしが若し御差支への折りは御代拜を立てられ花環を供へ厚く御弔問相成りし筈

故藤公の記念祭

▽哈爾賓居留民團の催し

昨廿六日は藤公遭難一週年に相當するを以て哈爾賓居留民團は公の英靈を弔し併て公の光輝ある歴史を記念せんが爲め同日午前十時より壯嚴なる記念祭典を執行し同夜倶樂部に於て川上總領事の快擧の祝を兼ね日鮮併合大祝賀會を催したりと云ふ因に尚藤公遭難記念建碑の議は川上總領事より露國官憲に交渉の結果露國側にても多大の賛同を表し今回愈よ停車場構内遭難地點附近の一區劃を貸與することゝなりたれば不日之が建立基金募集其他準備に着手すべし

日本留學鮮人少年の併合觀

▽生れてから一番嬉しい

山口縣柳井町の尋常高等小學校に一人の朝鮮美少年が在學して居る生れは慶尚北道金烏山で李漢永と云ふ人の長男浩籍（十四）と云ふ今は六年前當時柳井町の或る人が切りに渡日の必要を同人の實父に勸誘し日語研究の忽諸にすべからざるを説きたるより其の心になりて其の人の紹介に依る柳井町の皿田と云ふ人に托され爾來同地の學校に教導を受けて居るのである、皿田氏と云ふは柳井町に有名な實業家で親切に同人を世話せられる、如何に氣丈な少年でも其所は小供の事でタマには故郷懸しと思ふ事もある併し實父の方から毎月缺かさず學資は送る相だから氣丈夫に勉學して居るのである、一番好きな學科は算術で其の他は何れも同一だと云ふ今迄に一番嬉しく思つたことは今回の日本への併合であると云ふ勿論併合の如何なるものかは知らないが從來は朝鮮人と云つたら豚や犬の様に言はれて居たのだ夫れが世界の一等國に併合せられた結果一等國民として取扱はれると云ふ事が何より嬉しい夫れに付けても一層勉學して日本臣民として恥かしからぬ人となるべく心掛けて居ると見る人聞く人に語つて居ると云ふ

駒ヶ嶽の谷風襲名

▽來る一月場所より

寛政年間の名力士谷風梶之助は爾來其名跡を襲ぐ可き適當の力士なく先年今の年寄待乳山が大砲時代に襲名を勸告するものありしも彼れは徒らに故人の名を恥かしめん事を虞れて之れを辭退し其後今の二段目力士若島事足立山が其体格が口碑に傳はる谷風に似たりとて襲名を勸めし者ありしも年少の彼をして却つて名負けせしめては未來の發達を妨ぐるとて板垣伯等の反對ありて立消へとなり其後現張出大關駒ヶ嶽が同縣出身の故を以て勸誘するものありしも彼も又名力士の名を恥かしめん事を虞れて辭退せしが、彼れの進境は殆んど其極に達し來る一月は正大關に復し其成績如何に依つて梅、常陸の退隱と共に太刀山と相並んで來る五月場所より横綱を張る可く既に協會に於ても内々決定し居る事とて駒ヶ嶽會の人々は愈來る一月場所に於て谷風を襲名せしむる事に決定したる旨昨日同會より本社に通知ありたるが、實際目下の彼れが技倆は老境に入りし常陸、梅の最早敵する處にあらず太刀山と並んで東西の双壁とも云ふ可く茲數年間は再び梅常陸の全盛時代を現出する觀あらん

●出獄者の保護設備

内地に於ては出獄者の保護設備等は[illegible]は遺憾なく[illegible]團体より出獄後に意を用ひて監督改善せしむるに力を用ゆるも朝鮮に於ては出獄者に對して何等の保護注意を與へざるより怠慢の性質を馴致せられたる彼等は一般社會に[illegible]知己朋友なきが[illegible]等途[illegible]に困難なるより重ねて罪惡を犯すに至れる仕儀なるより近く本願寺に於ては當局者と共に出獄者保護の方法に就て苦心奔走中なるが經費の點よりして遂に實施に至らざるが明年秋頃迄には何等かの方法を設けらるべしと云ふ

菊のいろ〳〵（六）

▲京城一品鳳凰の頂

旭町三丁目叶と云ふ所に珍らしい菊があると云ふ事で記者は尋ねた、すると丁度主人が庭に出て手入れの最中であつたので申込むと早速の承諾で一廻り衛を眺めて一々説明を聽つた成程御商賣柄で鉢數は少ないが珍らしいのが四本程ある、其名は鳳凰の頂と云ふので一つの花から又莖が一二寸出で其れが花が付く丁度鳳凰の頂の様である。其れで此の名があるとの説明であつた、其所で種子は何處から取寄せられたと聞くと何かの種子と一所に混せて居て何處から取寄せたとも知れません去年の古莖の變化ですとの話で

鳳凰の頂　旭町三丁目　叶　栽培

ある處が此間金華園にも鳳凰の頂と云ふがあると云ふ事が出て居た故金華園にも此の花は有るのでしようと聞くとイヤ金華園にもあるが如に聞きましたし又原花寫眞にもあると云ふ故内のも其れと同じものかと見に參りましたら同園では東京から種子で取寄せたが何うも變化したらしいと話して居ました、夫れから私とこのと其の寫眞と比らべると同じで先づ京城では一品と思ひますとの事古い事ではありますが私が内地に居りました時分にも餘り見た事のない花です、何んでも聞きますと此花は伊太利の種子で京都の華族とかへ送つたのを日比谷公園へ御下げになつたとの事ですが日本本土にも日比谷を除く他には先づ無いと思ひます、先日も或る御客が見えて此の花は天下一品だと云はれたと主人得意で話される成程數ある花の中で此の様な花は見た事がない、然し花が美しい事でもなければ只ちの種だ珍らしいと云ふのである、金華園のが變化したとすれば定めて叶の一品であろうと思はれる他に二十鉢程もあるが別に珍らしいのもない様だ一寸面白いと云ふのが乙女の姿、天津乙女と云ふ二鉢であつた主人は何も話頭を續けて之れが種子を卸ろせるものなら來年から鳳凰の頂の元祖となつて種子を卸ろそうと思ひます、又花が充分咲きましたら寫眞を取つて新聞に廣告すると大氣焔であつた

藝娼妓行列參加不許可

▽風紀取締上の必要より

天長節奉祝の爲め各種各様の催しある内にも我社主催の提灯行列京日子主催の旗行列に參加せらるゝ向も多々あるが之れに對し其の筋にては孰れも藝妓娼妓等の行列參加は風紀取締上斷然許可せざる由なり

●老朝鮮人の萬引

二十五日午後三時頃明治町二丁目を中上藤村の兩特務が視察中擧動不審の鮮人を認め取調べんとせしに逃げ出せしを追跡三樹屋前にて取押へ引致取調べたるに同人は廣州郡草越面炭洞金精德（六）と云ふ者にて本町六丁目桑原呉服商店にて双子縞一反を窃取せしを手初めに外數十ケ所にて萬引せしこと發覺猶ほ餘罪ある見込にて取調べ中なりと云ふ

●新龍山の晝火事

二十五日午後一時二十分頃龍山山下町歩兵第六十五聯隊工兵第二大隊第一中隊並に臨時派遣隊の准士官下士を收容せる宿舍の西北隅より出火し同宿舍を燒失し午後六時三十五分鎭火したり原因は炊事場より失火したるものならんと云ふも明細ならず建物の損害は三萬三千二百二十二圓にして練兵具並に居住各人の私有物の損害は目下取調中なりと

●窃盜 兵庫縣人徳田金太郎（卅七）は二十二日龍山元町石橋方に忍び入り窃取したる衣類處分の爲め二十四日櫻井町通行中を南部署長野岸兩刑事に捕る

●自殺 西部積善坊伎珠嶼呉召史（一〇）は家計を苦にし附近の井戸に投身

今日の運勢

十月廿七日 舊九月廿四日 ●八白 友引 乙丑 平 △一白 諸事手控への事旅行金談貸借委囑談合聯合の事見込無し△二黑 他人より損害受け易き日なり婚談披露起業開店新事金談貸借金品授受徒勞に歸せん紛爭盜害注意の事△三碧 吉△四綠 事見合せの事色情の破れを戒しむ農林業に吉△五黃 業務上に失体疎慮を戒む可れ共同聯合婚談に吉△六白 都合好き日なり旅行賣買婚談起業開店に吉△七赤 婚談締約賣買貸借の事談充く進むす色情痴情の害を戒しむ△八白 新事及保證引受聯合共同見合せの事遺失酒色の害を戒しむ△九紫 盛運日なり大凡進んで吉旅行を禁ず疾病衛生注意の事（本町五丁目三 硯判新）

▲京龍兩驛の貨客

▲南大門驛乘降客 廿五日の分如左 乘車客 七八三 下車客 七九〇

▲南大門荷物扱高 廿五日の分如左 乘車貨金 一七六〇、一五 發送 四八噸 到着 二〇二噸 發送貨金 七〇二、一〇

▲龍山驛の乘車客 廿五日の分如左 乘車客 一二三八、下車客 一一九九 乘車貨金 三〇九、六九

▲龍山驛荷物扱高 廿五日の分如左 發送 二九噸 到着 三九九噸 發送貨金 一〇三、四八